



稽古に励む明生関◎

大相撲 立浪部屋

幕内力士が活躍、さらなる高みへ

地域に根差した相撲部屋を目指し、市内の陽光台に部屋を構える名門・立浪部屋。日本各地から17人の力士たちが集い、7代目立浪親方のもと、日々厳しい稽古に励んでいます。その立浪部屋で現在、幕内力士として気迫のこもった相撲を見せる明生関。今回の特集では、3月場所開幕を目前に控えた、明生関と立浪親方にインタビュー。お二人の相撲にける想いをお伝えします。

「攻める相撲」を貫く。 それが自分。

めいせい
明生 (本名：川畑 明生)

初土俵は平成23年5月。最高位は前頭十二枚目。鹿児島県大島郡瀬戸内町出身。身長180cm、体重115kg。23歳。



明生

前頭十二枚目

「良い相撲も悪い流れも両方が出た」。1月に両国国技館で行われた初場所を終えた明生関はそう話す。初日と2日目に黒星を喫し、その後6連勝。最終的には8勝で、勝ち越した。「初日と2日目は勝ちたい気持ちが強すぎて、身体が硬かった。3日目からは吹っ切れたというか、余計な力を抜けた。それが良かったかな」と振り返る。

気力、体力ともに充実

昨年の9月場所、11月場所も含め、3場所連続で勝ち越しとなった明生関。「今は良い感覚で相撲が取れています。ケガをしない体づくりや、心の準備の部分も、自分でいい方向に持っていく方法がわかってきました」と充実ぶりを感じさせる。

現在、前頭十二枚目と、部屋で最高位の番付につける。部屋の看板を背負っているというプレッシャーはあるのか尋ねた。「あまり考えないようにしています。みんなの立浪部屋だと思ってるし、まずは自分のために頑張ること。それで良い結果が出れば、周りも盛り上がる」とあくまで自然体だ。「勝ち越すことで気持ちが強くなる。15日間、一日一番に集中するだけです」。

本場所ではどんな気持ちで土俵に立っているのだろうか。「気

迫で相手に負けないようにすること。あとは、自分の相撲を取ることだけを考えています。体は動きたがるんですが、頭は冷静に保つことを心掛けています」。

人とのつながりが財産に

相撲をやっているよかったです。と思うときはどんなときなのかを尋ねた。「色々な人とのつながりができたことですね。これまでたくさんの人に出会い、良い影響を受けてきました。相撲をやっていたら出会えなかった。この経験は相撲にも生かしていると思います」。

最後に、3月場所に向けた意気込みを聞かせてもらった。

「攻める姿勢を貫いて、自分の相撲を取るだけです。それが良い結果につながると思っています。目標は、「大勝ち(2桁勝利)として、横綱や大関と戦いたいですね」と力強く語ってくれた。

明生関を応援しよう

「大相撲3月場所」は、3月10日(日)から24日(日)までの15日間、大阪府立体育会館で開催される。観覧券はすでに全日程で完売だ。もちろん、NHKでテレビ中継もされるので、ぜひ、明生関を応援しよう。前頭の明生関が登場するのは、おおよそ午後4時頃〜5時頃だ。

相撲の豆知識

[幕内力士ってスゴイんです!]

[幕内力士] 大相撲に6つある階級(幕内・十両・幕下・三段目・序二段・序の口)の最高ランク。現在は日本全国の相撲部屋に合わせて42人います。幕内には最上位である「横綱」の下に、三役とよばれる「大関・関脇・小結」が東西に1人ずつ、その下に東西の「前頭」がいます。年6回興行される本場所では、15日間の取組が生まれ、場所を通じた勝ち星の総数などで、番付が変わります。